

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（平成30年度期末）

1 支援の内容及び効果等（1）

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (4) 「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・「会計」「広報」の各担当者別に「情報交換会」を各2回開催し、新担当者へのフォロー策として「会計担当者情報交換会」を6月に5回に分けて各地域に出向き開催し、「補助金出張研修会」を要望のあった3地域で開催するなどタイムリーな支援を行っており、地域との信頼関係をより深めることができた。 ・地活協発足以降、運営委員の異動が相当数あることから、区民も対象にし、改めて地域活動協議会について理解が深まるよう、「地域活動ハンドブック」を10月に作成して広く配布し、様々な場面で活用した。 ・地域課題の解決に向けた自律的なまちづくりへの支援として、昨年度に引き続き第2回「企業・NPO・学校・地域交流会」を「防災」をテーマに開催した。 ・新たな担い手発掘の課題について、城東区社会福祉協議会内に昨年度新たに設置された「ボランティア・市民活動センター」と連携し、「ボランティア受入講座」や座談会「わがまち防災」、スーパー店舗内スペースでの防災イベント（3回）、スキルアップ講座「災害ボランティア養成講座」（5回）、子育て層を対象とした「親子deリトミック&ハロートーク」「親子deリズムダンス&ハローワーク」（2回）、男性高齢者層を対象とした「健康麻雀体験講座」を開催し、課題解決と新たな担い手の発掘に向けた取り組みが行われ、徐々に成果が上がってきた。 ・地域公共人材の活用を働きかけた結果、3地域で活用が行われ、企画検討の場で外部の人材を受け入れる地域も出はじめたことや「情報交換会」では同じ担当者間で情報交換が行われるようになってきたことなど「つながりの拡充」が進みだしてきた。 ・「情報交換会」のテーマを、今年度の重要課題である包括外部監査指摘への対応が必要であるため「会計」と、当区の区運営方針の業績目標にも掲げている「広報」に設定して担当者別に開催したことにより、会計に関しては、例年よりも早く予算申請書の提出が完了し、広報に関しては、未発行1地域に支援した結果、SNS同様に目標としてきた全16地域での広報紙の発行が完了できる見込みがたった。

	<p>・「区独自の取組み」である自主財源の確保に向けたCB/SB実施支援は、まちづくりセンターも地域に対して情報提供を行なった結果、今年度初めて1地域が実施する運びになった。</p> <p>また、1地域で独自の会計事務処理ソフトの開発が進行中で、ソフト完成後は、他区へ販売する構想が生まれてきた。</p>
--	--

2 支援の内容及び効果等 (2)

評価項目

(1) 自由提案による地域支援の支援状況 (実績) 及び効果等

(2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる支援状況 (実績) 及び効果等

(2-2) フォロー(バックアップ)体制等にかかる支援状況 (実績) 及び効果等

(3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる支援状況 (実績) 及び効果等

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域に足繁く通い、様式1-1「2 支援の内容及び効果等(1)」のとおり、多岐にわたる企画提案について精力的に実施した。 ・昨年度よりアドバイザー1名・支援員4名の体制を1名減員し、アドバイザー1名・支援員3名に見直したところであるが、地域要望にそって担当地域を決め、これまでどおりの支援業務を行なうことができた。 ・企画提案どおり、「城東区ボランティア・市民活動センター」と連携して事業を行っている。母体である城東区社会福祉協議会の長年の実績、強みを活かした支援を期待する。 ・CB/SBに関して、1地域で開発中のオリジナル会計ソフトは、包括外部監査結果に対応し事務負担を軽減するものとして期待されているが、バグの解消に時間がかかっており、今年度中の完成には至らなかった。完成後には他区へのソフトの有償提供も地域内で検討されており、こうした動きが出てきたことは、まちづくりセンターが各地域にCB/SBの実施を意識付けしてきた成果と考える。

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策 (取組) の状況及び効果等 (5つ以内)

評価項目

区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策 (取組) にかかる支援の状況及び効果等

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・【運営支援・相談支援】 ・支援員の地域訪問を増やしており、地域事情の把握が一層進むようになってきたものと評価する。 ・【城東区ボランティア・市民活動センターとの連携】 ・城東区社会福祉協議会内に昨年度「城東区ボランティア・市民

	<p>活動センター」の設置以降、新たな担い手発掘の課題について、まちづくりセンターがこれまで連携してきた成果が少しずつ表れてきており評価する。</p> <p>【会計事務の簡素化・負担軽減に向けた支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括外部監査結果から、今年度より新様式での実施が必要であり、「情報交換会」のテーマを「会計」で開催し、「会計研修会」を5回開催、会計担当者が変更になった地域の要望に応え「出張研修会」を3地域に対して実施、区役所が開催した「補助金説明会」のフォローのための「質問会」を実施、さらに「地域活動ハンドブック」も作成、中間決算を指導してスムーズに事務処理が進むように支援を強めたことから評価する。 ・1地域での会計事務処理ソフトの独自開発については、完成時の事務軽減の効果が期待されることから、ソフトの試用に協力をしており、評価する。 <p>【企業・NPO・学校等、多様な主体とのつながりづくり、連携・協働の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月2日開催の第2回「企業・NPO・学校・地域交流会」では、地元企業が地域の情報紙を発行するようになったことや防災関連NPO法人のメンバーがミニ講座を定例開催するようになったこと、府立高校と地元地域間で防災に関する意見交換が行われる動きにつながったことなど評価する。 <p>【地域活動協議会に関する広報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残る1地域における広報紙未発行の課題については、今年度末に発行の作業が進んでおり、SNSと同様に全16地域で完了できる見込みであり、評価できる。
--	---

4 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）

評価項目

- (1) アンケート調査
- (2) 自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）
 - (2-1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
 - (2-2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
 - (2-3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
 - (2-4) 「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) その他の効果のあった内容

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「(ア) 自律的な地域運営」の「現在の状況」は、まちづくりセンターの支援を受けている団体が「自律的に地域運営に取り組んでいると思う割合」については、昨年度の67.5%から

	<p>64. 5%に3%ダウンしたが、仕様書における「成果目標である50%以上」を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「(イ) 新たな担い手育成」の「現在の状況」は、「まちづくりセンターの『地域活動の担い手の拡大に向けた支援』」が役だったと思う割合が、昨年度の45.5%から62.7%に大幅にアップし、仕様書における「成果目標50%以上」を達成した。 ・ 「(ウ) 中間支援組織の活用」の「現在の状況」は、「まちづくりセンター等からの支援に満足していると思う割合」は、昨年度の57.5%から86.4%と大幅にアップし、仕様書の「成果目標50%以上」を達成した。 ・ その他の項目においても、ほとんどの内容で昨年度期末評価を上回る結果にあり、評価する。 ・ 「中長期の目標」において、「ステージ1・2の全項目の達成」は順調ではないが、昨年度の評価資料「状況5」との比較では、自律度がアップした地域が7地域、総合評価がアップした地域が5地域あり、評価項目に偏りはあるが進捗が見られる。 ・ 「城東区ボランティア・市民活動センター」と連携して開催した防災をテーマにしたスキルアップ講座「災害ボランティア養成講座」(5回開催)は、「インクルーシブ防災」の考えを取り入れた社会福祉協議会ならではの内容で開催され、参加者層を広げる取り組みであり評価する。
--	---

5 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域活動ハンドブック」の作成は、地域活動協議会の活動に従事するのが初めての方にも、役員として従事中の方にもわかりやすい入門書として区役所担当と調整のうえ完成させたもので、地域集会所や区役所をはじめ人が集まる場所に広く設置・配付し、地活協の知名度を高めることにも貢献するものであり評価する。 ・ 「会計担当者・広報担当者情報交換会」や「地活協補助金研修会」、また「補助金説明会」開催後の「フォロー質問会」の開催、地域公共人材の活用による「広報紙作成支援」や「ボランティア受入講座」の開催など、地域要望に応じた様々なメニューで支援を実施し、また「企業・NPO・学校・地域交流会」の開催では、地域の色々な層に参加・参画を促し、会計支援に偏りがちな支援から地域課題への支援に幅を広げており、新たな担い手の発掘にもつながる可能性がある点でも評価する。 ・ CB/SBは財源確保だけではなく、地域課題を解決すると同時に、新たな区民の参加・参画が見込まれることから、自律的・

	<p>継続的な地域運営の進捗に大きな効果がある取組みであり、地域の理解が一層進むよう区役所担当とも連携し、タイムリーな情報提供・説明を進めてもらいたい。</p> <p>・母体である区社会福祉協議会では、独自のノウハウや情報を活用し「城東区ボランティア・市民活動センター」との連携により様々な事業を行っており、今後、「センター」からのボランティア派遣が地域活動の担い手としてつながるようにまちづくりセンターによるマッチングの支援を期待する。</p>
--	---

(評価基準)

- S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。